

平成26年度森林・林業白書の総括

1. 閣議決定・公表までの経緯

(1) 平成26年度白書では、冒頭のトピックスにおいて、平成26年度の森林・林業に関する特徴的な動きとして、①映画「WOOD JOB!」で「森林の仕事」が注目、②「CLTの普及に向けたロードマップ」が公表、③「山の日」が国民の祝日に、④長野県、広島県等で山地災害が多発の4つを紹介・解説した。

特集章では、「森林資源の循環利用を担う木材産業」をテーマに、木材産業の役割や業種別の概要等について記述するとともに、戦後の木材需給の変遷と木材産業の対応を振り返り、木材産業をめぐる最近の動向と課題を整理した。

(2) 昨年9月以降、計3回の施策部会を開催してご審議いただき、本年4月の林政審議会でも諮問・答申が行われた。その後、5月29日に閣議決定・国会提出を行い、公表した。(別添1)

2. 閣議決定・公表後の動き

(1) 報道

森林・林業白書の公表後、全国紙に記事の掲載はなかった。全国紙以外では、地方紙3紙のほか、業界紙に記事の掲載があり、林業と実需者を結ぶ木材産業の役割、CLTなどの新技術の開発、木材輸出、森林の仕事、「山の日」の制定等の記述内容に着目した関係記事が掲載された。(別添2)

(2) 広報・普及

閣議決定本の配布、市販本の出版、解説記事の投稿等に取り組んだ。また、林野庁企画課の担当者が説明会に赴き、35箇所で行った。(別添3)

(3) 主な評価

説明会でのアンケート調査等では、

- ・映画など身近な話題が取り上げられており、読みやすい
- ・森林資源の循環利用と木材産業について理解が進んだ
- ・森林資源の若返りといった記述が皆伐を大々的に行うように読み取れる
- ・若返りといった政策の大転換がどのように議論されたのか不透明等の評価があった。(別添4)

(以上)

平成26年度森林・林業白書の
閣議決定・公表までの経緯

- 平成26年9月10日 第1回施策部会
- ・作成方針（案）の検討
- 11月17日 第2回施策部会
- ・平成26年度森林及び林業の動向
（構成と内容（案）、主要記述事項（案））
- 平成27年2月18日 第3回施策部会
- ・平成26年度森林及び林業の動向（原案）
 - ・平成27年度森林及び林業施策（原案）
- 4月15日 林政審議会
- ・平成26年度森林及び林業の動向（案）
 - ・平成27年度森林及び林業施策（案）
（諮問・答申）
- 5月29日 閣議決定・国会提出・公表

平成26年度森林・林業白書に関する主な報道について

紙名	日付	記事の概要
宮崎日日新聞 熊本日日新聞 高知新聞	5/30 〃 5/31	<p>【森林・林業白書 木材輸出45%増】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は29日、2014年度の「森林・林業白書」を閣議決定した。14年の木材輸出額が178億円と、前年比45%増と大幅に伸びたことを紹介。為替の円安傾向などが背景だ。20年までに輸出額を250億円に伸ばす目標の達成に向け、国産材の普及活動に取り組む姿勢を強調した。 ・白書ではこのほか、木材産業の現状や課題が取り上げられた。競争力強化のために、消費者らの需要に応じた木材製品の生産や販売が必要だとした。
日本農業新聞	5/30 6/22	<p>【木材産業に焦点 14年度林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は29日、2014年度の森林・林業白書を閣議決定した。国産材の利用推進などの点で、林業と実需者を結ぶ木材産業の役割が重要だと強調。木材産業が直交集成板（CLT）をはじめとする新技術の開発などで新たな木材需要をつくり出すことや、国産材を木材製品に加工し、付加価値を高めて輸出することへの期待を示した。 <p>【(論説) 林業の展望 国産回帰を本格軌道に】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度林業白書は、森林の元気が人口減少に苦しむ山村に雇用と産業を生み出すとうたう。白書は、林業の成長産業化を支える木材産業に焦点を当て、川下（消費者・実需者）と川上（林業関係者）をつなぐ役割を評価。 ・林業に新風が吹く。「緑の雇用」事業の後押しで若者を引きつける「森林の仕事」、森の恵みに感謝する国民の祝日「山の日」の制定などのトピックスを白書は取り上げた。 ・国産回帰の流れもある。木材産業に占める国産材原木の利用率は8割近くに上昇、木材需要も09年を底に回復傾向にある。今後は住宅や紙・板紙に加え、公共建築物、土木分野、木質バイオマスなどに注目する。 ・白書が新たな建築資材として注目し特集したのが「直交集成板（CLT）」だ。建築基準の整備で日本でも公共機関を中心に木造建築の普及が進むことを期待したい。
農経新報	6/1	<p>【木材産業の動向特集 資源と利用つなぐ役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の森林・林業白書は、第1章で「森林資源の循環利用と木材産業」と題して特集、白書としてはじめて木材産業に焦点を当て、これまでの経緯、最近の動向を整理するとともに、将来に向けた課題を指摘した。 ・今回、木材産業を特集に取り上げたのは、木質資源と木材利用をつなぐのが木材産業となることから、前年度に川上を対象とする「森林整備」に続く形で特集した。

紙名	日付	記事の概要
林経新聞	6/4	<p>【新たな国産材時代うたう 14年度森林・林業白書 閣議決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は5月29日、2014年度森林・林業白書を閣議決定した。14年度の特徴的な動きを挙げた「トピックス」では①映画「ウッドジョブ！」で「森林の仕事」が注目②CLT普及に向けたロードマップの公表③山の日が国民の祝日に④長野県、広島県などで山地災害多発の4点を紹介した。1章では森林資源と木材利用をつなぐ木材産業に注目し、その形態や主な木材製品、市場の様子などを紹介。また木材需要の変遷と木材産業の対応を時代別に追ったほか、最近の動向と将来に向けた課題などをまとめた。
日刊木材新聞	6/5	<p>【「木材産業」に注目 14年度森林・林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度の森林・林業白書が閣議決定した。今年度は「森林資源の循環利用を推進していくためには、木材を木材製品に加工し、流通させる存在が不可欠」として木材産業に注目。主要業種別、年代別に歴史の変遷や課題を整理したうえで、新設住宅や製紙等の既存需要が不透明ななか、「新たな木材需要の創出が重要な課題」と指摘した。
農村ニュース	6/8	<p>【林業白書 若い従事者が増加 木材産業の重要性指摘】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農水省はこのほど、平成26年度の林業白書を発表した。今年度の白書では、特集として木材産業を取り上げ、森林資源の循環利用には、木材産業の存在が不可欠などと指摘している。一方、林業の動向では、林業労働力の中で、林業従事者数は近年下げ止まりの兆しがみられるとし、65歳以上の高齢化率は21%と高い水準にあるものの、若年者率（35歳未満）も18%まで上昇。さらに緑の雇用事業実施以来、林業への新規就業者数は大幅に増加している。

平成26年度森林・林業白書の広報・普及について

1. 閣議決定本の配布

閣議決定本を3,800部印刷して、国会に提出(約1,000部)するとともに、関係省庁(約120部)、都道府県(約240部)、都道府県立林業試験場(約50部)、都道府県立図書館(約110部)、市立図書館(政令市のみ)(約40部)、林業関係団体(約260部)、農業高校(約70部)、大学・短期大学(約40部)等に配布。

また、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。

2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった2者に対し出版許可を行い、市販本計6,800部を出版・配布。

- ・一般社団法人全国林業改良普及協会：5,000部
- ・一般財団法人農林統計協会：1,800部

3. 説明会の開催

農林水産白書合同説明会や大学等の主催する説明会において、林野庁企画課の担当者が直接赴き、合計35回、約1,200名に対して、森林・林業白書の概要を説明。(大学等の説明会では、参加者に対して、自由記述のアンケート調査を実施。)

(1) 農林水産白書合同説明会

農政局等毎の9ブロックにおいて、農林水3白書の合同説明会を開催。(近畿ブロックは台風の影響により中止。)都道府県、市町村、森林・林業関係者等を中心に、計約340名が参加。

北海道農政事務所(7/17)、東北農政局(7/6)、関東農政局(6/25)、北陸農政局(7/15)、東海農政局(6/30)、中国四国農政局(中国)(7/13)、中国四国農政局(四国)(7/29)、九州農政局(7/7)、沖縄総合事務局(7/21)

(2) 大学等

全国の20の大学等において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。今年度は、秋田林業大学校、京都府立林業大学校で新規に開催。農学部等の学生を中心に計約620名が参加。

北海道大学(7/17)、岩手大学(7/21)、秋田林業大学校(6/30)、筑波大学(7/17)、宇都宮大学(6/4)、東京農工大学(7/9)、上智大学(6/22)、日本大学(6/17)、新潟大学(7/7)、金沢大学(7/15)、岐阜県立森林文化アカデミー(6/29)、三重大学(7/1)、京都大学(6/24)、京都府立大学(6/24)、京都府立林業大学校(7/16)、岡山大学(7/14)、高知大学(6/16)、九州大学(6/10)、鹿児島大学(6/9)、琉球大学(7/21)

また、全国の森林・林業関係の学科のある農業高校のうち開催要望のあった36校において新規に説明会を開催。

(3) その他

開催要望のあった6者において、白書説明会を開催。計約250名が参加。

日本林政ジャーナリストの会(6/15)
日本政策金融公庫(6/30)
宮崎県(7/2)
全国レクリエーション協会(7/15)
森林総研 森林整備センター(7/22)、林木育種センター(7/24)

4. 解説記事の投稿

森林・林業関係誌6紙に、白書の解説記事を投稿。

「林野-RINYA- 6月号」(林野庁広報室)
「森林と林業 6月号」(日本林業協会)
「森林組合 6月号」(全国森林組合連合会)
「山林 7月号」(大日本山林会)
「森林技術 7月号」(日本森林技術協会)
「林業経済 8月号」(林業経済研究所)

(以上)

平成26年度森林・林業白書に対する主な評価

1. 全般に関するもの

- ・ 話題性の高いものや注目度の高いものが盛り込まれていて、林学を勉強する際にとっても役立つ情報が多いように感じた。
- ・ 分かりやすいグラフが多く、写真や文字もカラーで見やすいため、抵抗なく読むことができる。
- ・ 専門用語が多く、わかりにくい。
- ・ 白書で、森林資源の若返りや年齢構成の均衡がとれた森林資源の造成といったことが書かれているが、皆伐を大々的に行う「決意表明」のように読み取れる。
- ・ 若返りといった政策の大転換がいつどこでどのように議論されてきたのかが国民には不透明で、突然白書に出てきている。

2. トピックスに関わるもの

- ・ 映画「WOODJOB!」など身近な話題が取り上げられており、読みやすい。
- ・ 緑の雇用で若者の林業就業者が増えていることや、林業をテーマにした映画が公開されたことなどが紹介されており、林業が盛り返しを見せていると感じた。

3. 第I章（特集章）に関するもの

- ・ 森林資源の循環利用と木材産業について、川上・川中・川下の関係など理解が進んだ。
- ・ 「木材加工・流通の概観」の図はとても見やすく、分かりやすい。
- ・ 木材需要の構成の推移のところで使われている箱の図の資料がとても分かりやすく、見やすかった。
- ・ 国内の木材産業の国産材利用率が8割近くまで上昇していることが印象に残った。
- ・ 木材は昔から様々な用途で用いられてきたが、まだまだ技術の開発などによる可能性を残しているのだと実感した。

4. 通常章に関するもの

- ・ 林業遺産、森林環境教育、山村文化といった観点でのコラムが充実している。
- ・ 生物多様性に関する記述が「森林」・林業白書としては不十分ではないか。特に里山の整備と生物多様性の関わりについては、林業サイドからも語られるべきアピールポイントではないか。

(以上)